

3 子ども・若者

～健やかに育む～

基本目標9 安心して子どもを生み育てられるまちにします

基本目標10 将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします

基本目標11 若者が社会的に自立し活躍できるまちにします

基本目標9

安心して子どもを生み育てられるまちにします

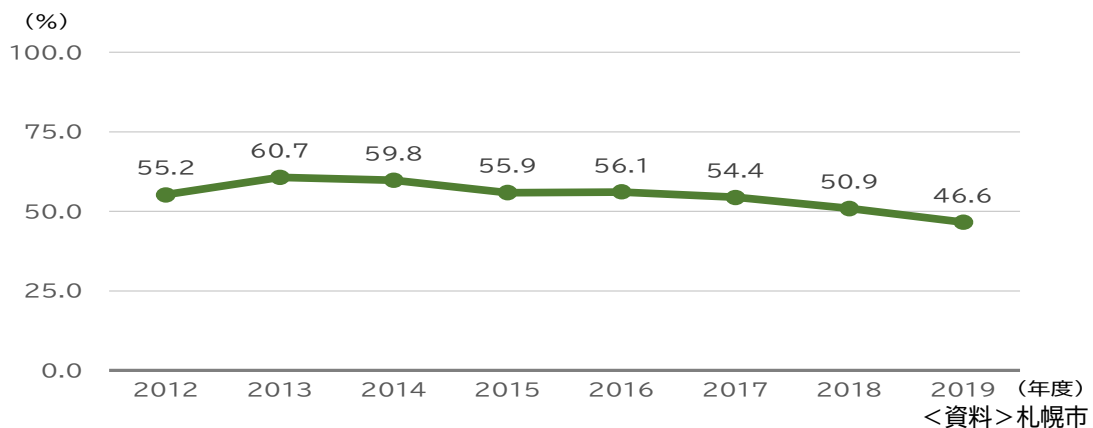
将来のまちの姿-1

地域の団体や企業、NPO、行政などによる様々な支援を通じて、安心して子育てができる環境が整っています。

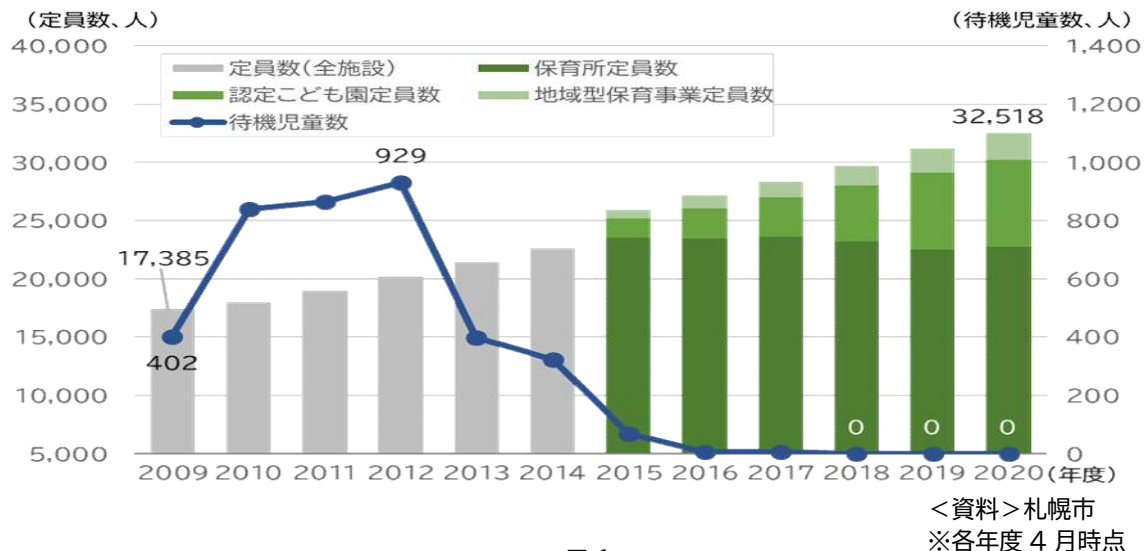
データからわかる現在のすがた

- ①子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合は 55.2%(平成 24 年度(2012 年度))から 46.6%(令和元年度(2019 年度))と、この 7 年間で約 9 ポイント以上低下しています。
- ②国定義での保育所待機児童数は0となっています。
- ③子育てに関する悩みは、平成 25 年度(2013 年度)と平成 30 年度(2018 年度)を比べると、「子どもの病気や発育・発達に関すること」や「子どもの教育に関すること」など、上位3項目は変わらないものの、「自分の自由な時間がもてないこと」、「仕事と子育ての両立が大変なこと」といった親自身の悩みが約 10 ポイント増加しています。

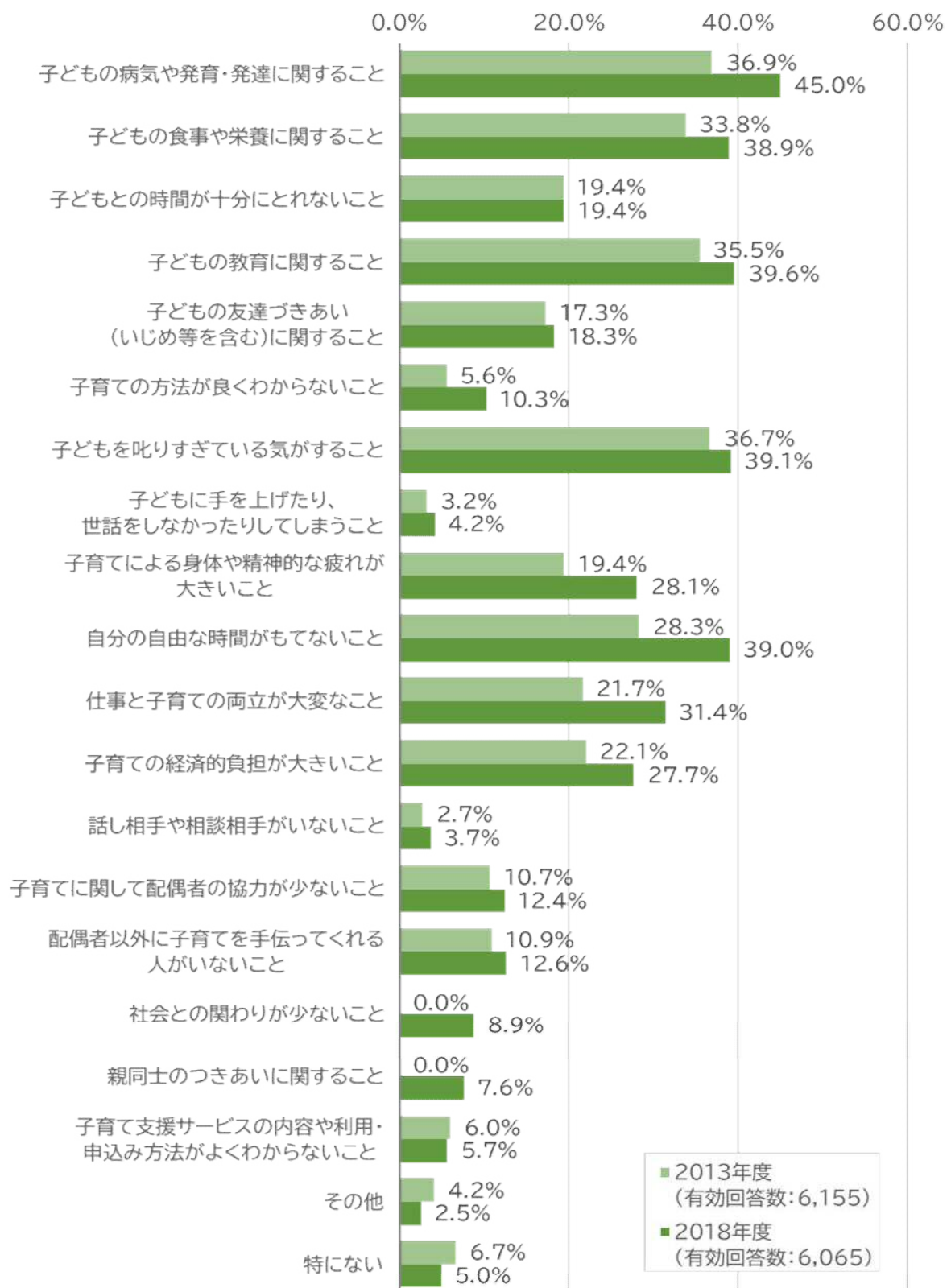
①子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合



②保育定員と待機児童数の推移



③子育てに関する悩み



<資料>札幌市

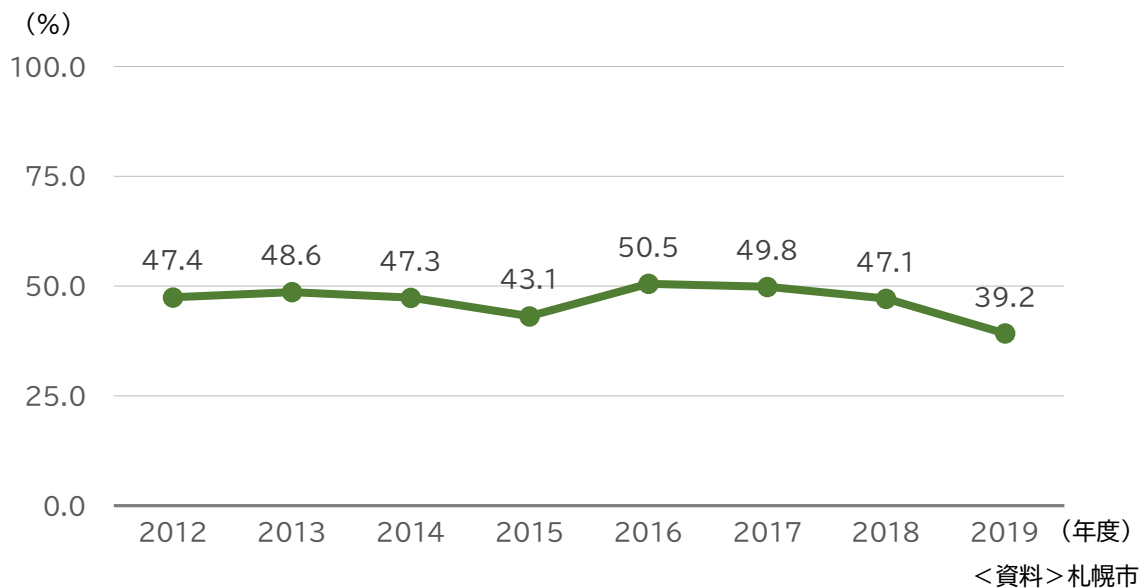
将来のまちの姿-2

ワーク・ライフ・バランスの考え方が社会全体に浸透し、男性も女性も仕事と生活の調和を図り、働きながら子育てができる環境が整っています。

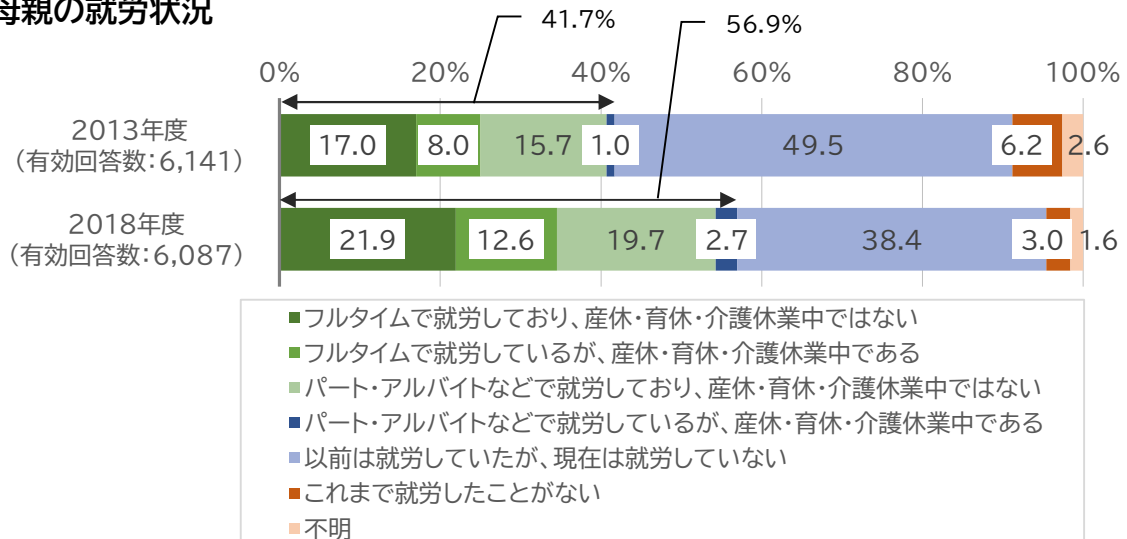
データからわかる現在のすがた

- ①仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合は47.46%(平成24年度(2012年度))から39.2%(令和元年度(2019年度))と8ポイント程度低下しています。
- ②母親がフルタイム、パート・アルバイトなどで就労している割合は41.7%(平成25年度(2013年度))から56.9%(平成30年度(2018年度))と大幅に増加しています。
- ③就労中の親が平日に子どもと過ごす時間は、母親は「5～6時間」が42.8%と最も多いのに対して、父親は「1～2時間」が47.6%と最も多くなっています。

①仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合



②母親の就労状況

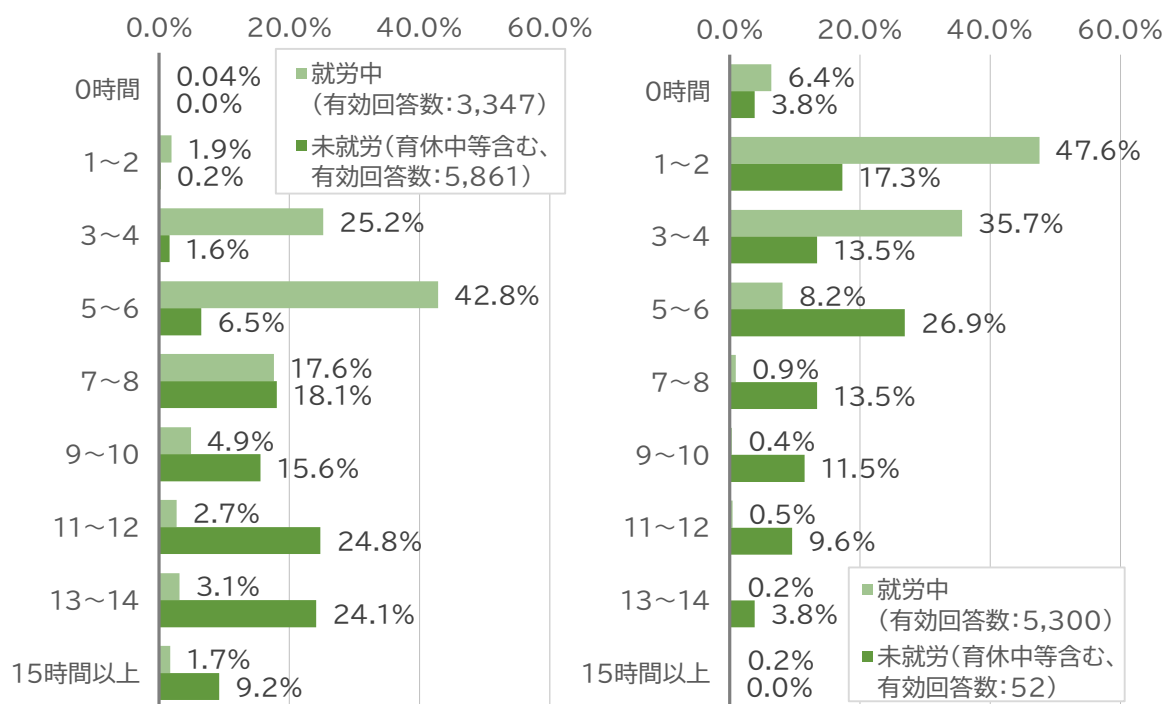


<資料> 札幌市

③平日に子どもと過ごす時間(平成 30 年度(2018 年度))

(平日に母親が子どもと過ごす時間)

(平日に父親が子どもと過ごす時間)



<資料> 札幌市

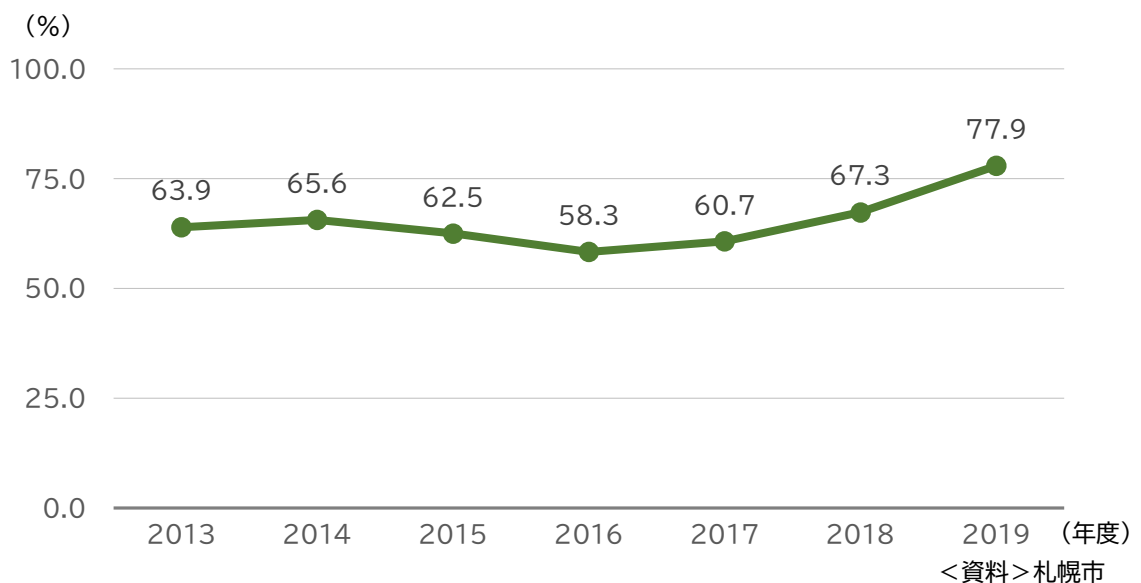
将来のまちの姿-3

多様なニーズに対応した保育サービスが提供され、子どもが小学校に入学した後も、放課後児童対策などの支援体制が整っています。

データからわかる現在のすがた

- ①希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合は 63.9%(平成 25 年度(2013 年度))から 77.9%(令和元年度(2019 年度))に増加しています。
- ②放課後児童対策として、小学校の新改築時に合わせて、児童会館及びミニ児童会館を学校と併設した新型児童会館に転換するなどの取組を行っています。

①希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合



②札幌市立二条小学校(新型児童会館併設校)



基本目標 10

将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします

将来のまちの姿-1

子どもたちは、一人一人の個性や特性を伸ばす充実した教育を受け、伸び伸びと遊ぶことを通じて、生きる力を高め、豊かな創造力を身に付けながら成長しています。

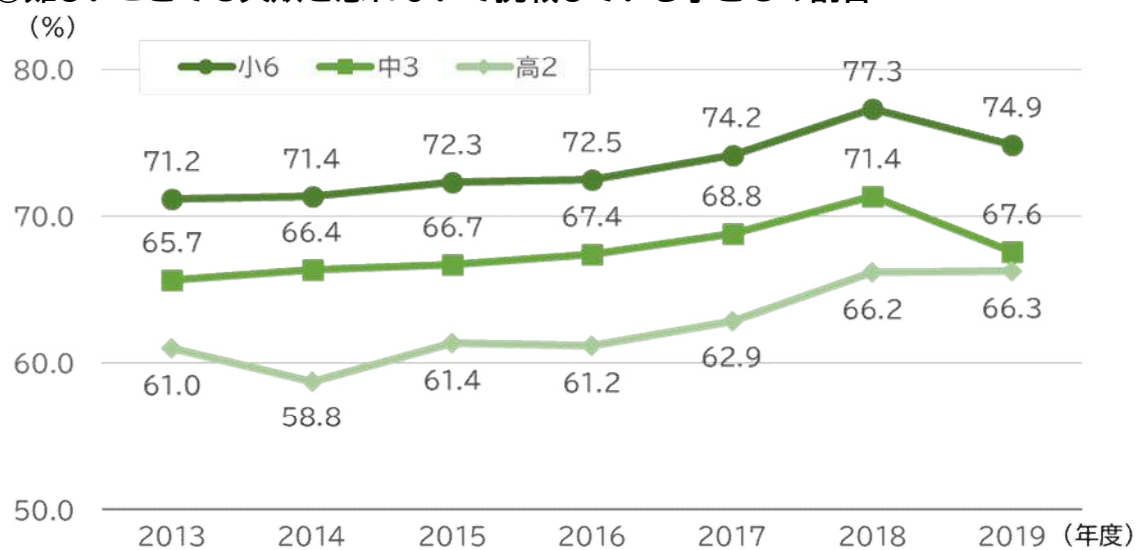
データからわかる現在のすがた

- ①小学校高学年の算数を対象に、少人数による指導を行うなど、課題探究的な学習を進めています。
- ②難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は、小学生、中学生、高校生においても増加しています。
- ③体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、平成25年度(2013年度)と比較し小5男女、中2男女ともに減少しており、子どもの運動習慣が定着しつつあります。

①グループで討議し、多面的・多角的に考える授業の様子



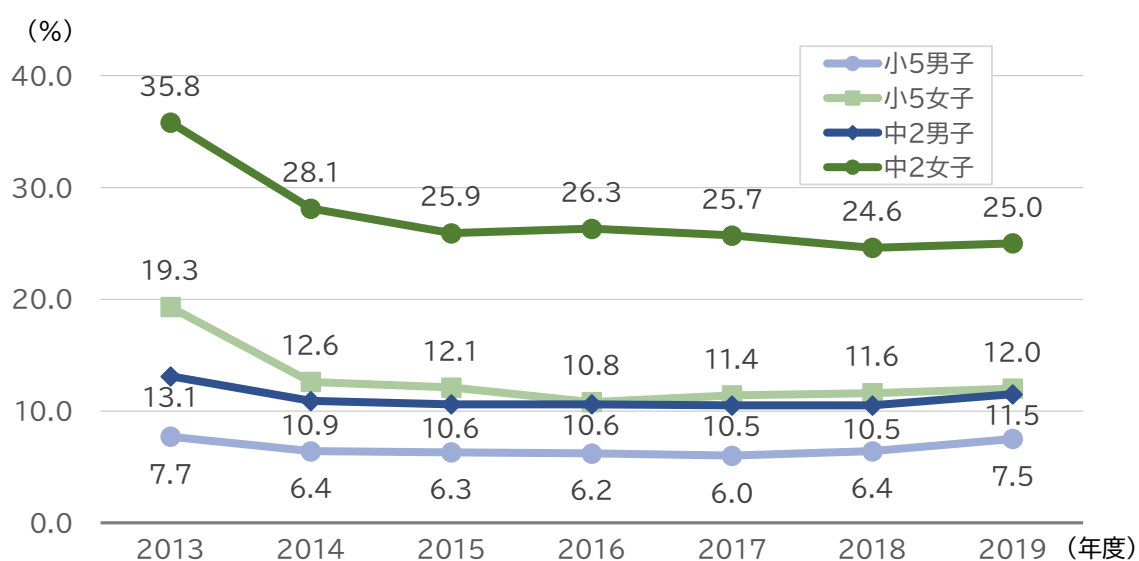
②難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合



<資料>札幌市

※2018年度のみ小6ではなく小5、中3ではなく中2に対して調査を実施

③体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合



<資料>全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(積極的に運動に親しもうとする子どもの姿)



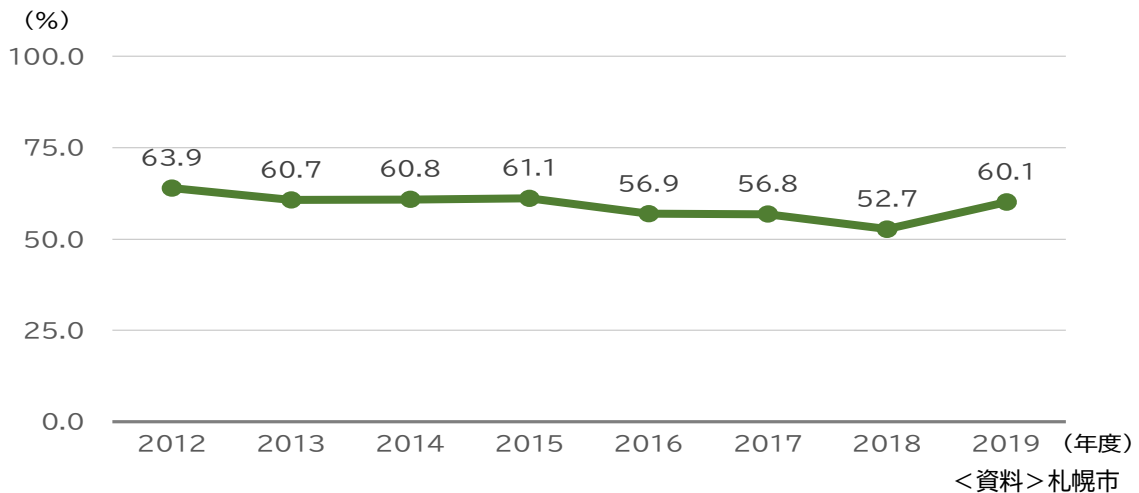
将来のまちの姿-2

家庭・地域・学校の連携による多様な体験活動などを通じて、子どもたちは自立した社会性のある大人へと成長しています。

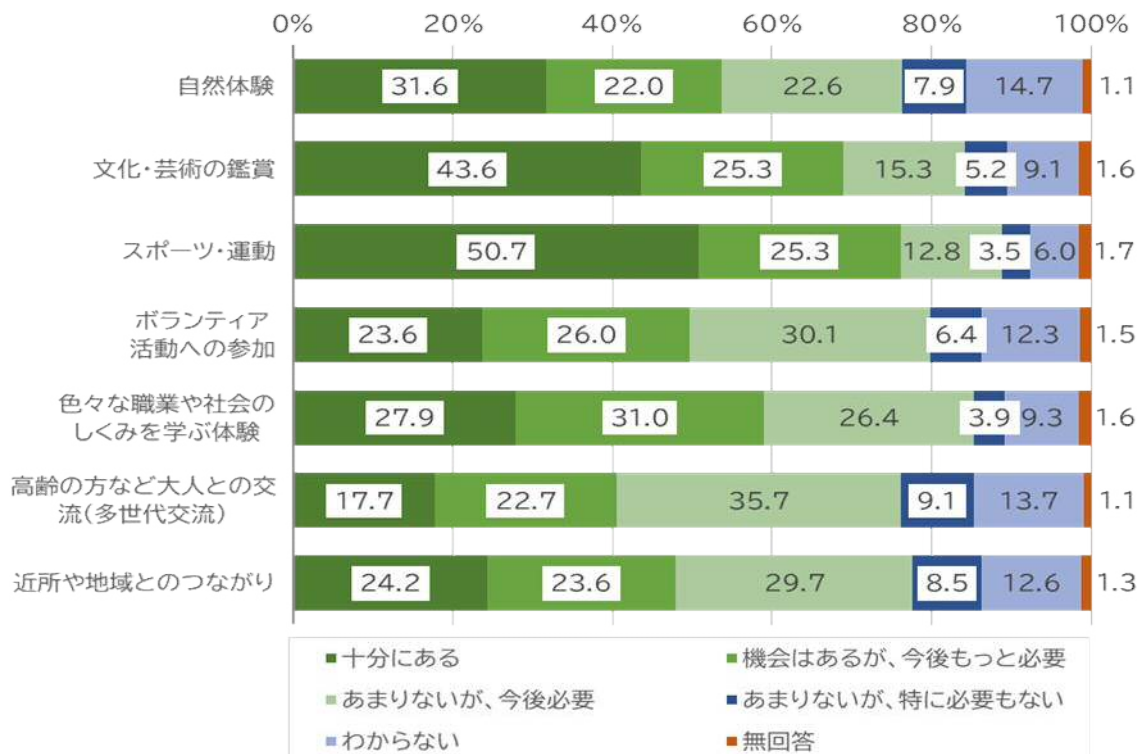
データからわかる現在のすがた

- ①子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合は横ばいです。
- ②子どもの体験機会に関して、自然・文化・スポーツ体験は比較的にあるものの、社会体験や地域との交流があまりなく、今後必要との傾向が見られます。

①子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合



②子どもの体験機会（平成 30 年度(2018 年度)）



将来のまちの姿-3

いじめや不登校、児童虐待などを未然に防ぐとともに、迅速かつ適切に対応する環境が整っています。

データからわかる現在のすがた

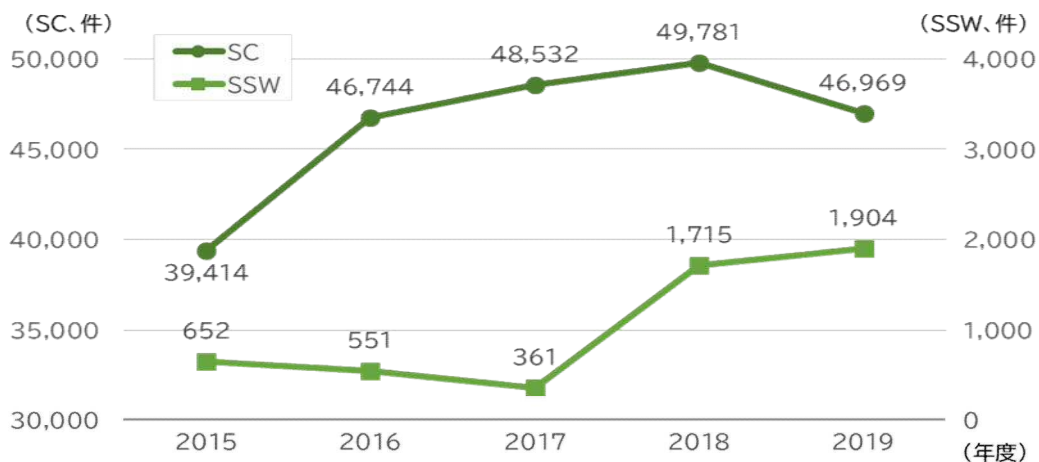
- ①いじめなどの不安や悩みを身近な人などに相談する子どもの割合は小学生、中学生、高校生においても増加しており、学校等による困りを抱えた子どもの積極的な認知が進んでいます。
- ②スクールソーシャルワーカー（SSW）への相談件数は、巡回SSWを導入した平成30年度（2018年度）以降大幅に増加しており、アウトリーチ型の支援に対するニーズが高まっています。また、スクールカウンセラー（SC）への相談件数についても増加傾向にあります。
- ③子どもの権利についての実態調査の結果、大切にされていない権利としては「いじめ、虐待、体罰などから心や体が守られること」、「障がい、民族、国籍、性別、家族のことなど、どんな理由にせよ、差別などを受けないこと」等の回答が多くなっています。
- ④オレンジリボン地域協力員登録人数は12,549人（平成25年度（2013年度））から16,929人（令和元年度（2019年度））に増加しています。

①いじめなどの不安や悩みを身近な人などに相談する子どもの割合

	2012 年度	2019 年度
小学生	92.1%	93.9%
中学生	82.2%	88.9%
高校生	80.7%	90.2%

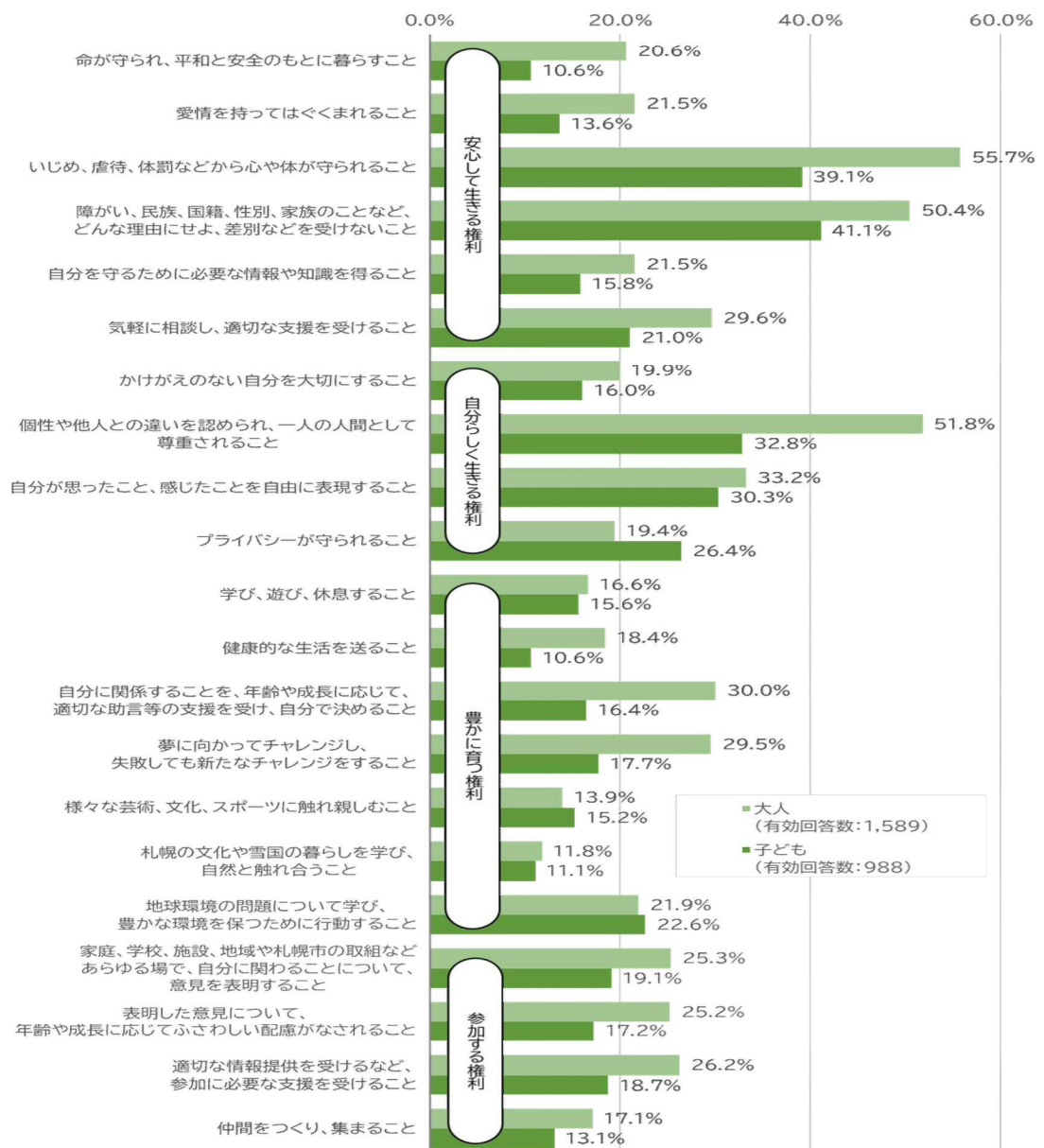
<資料>札幌市

②SC 及び SSW への相談件数



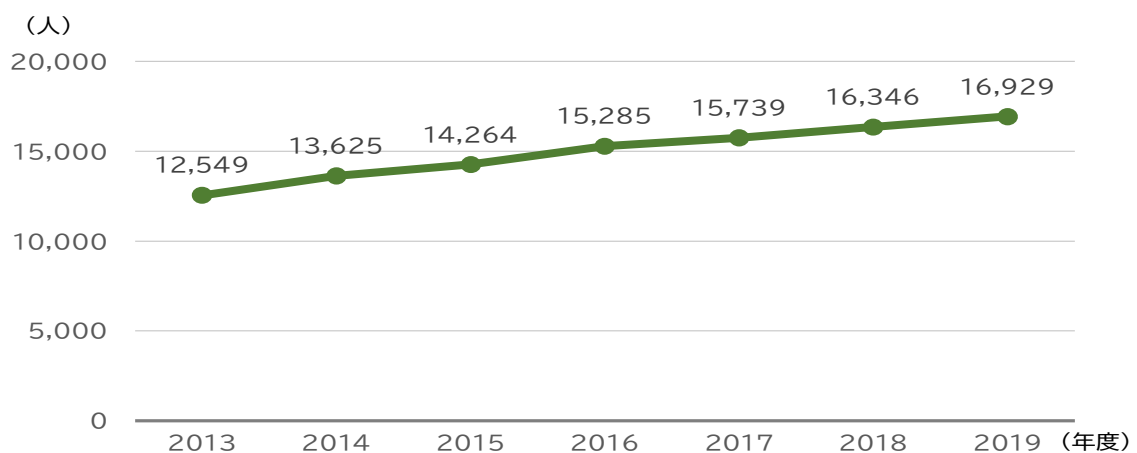
<資料>札幌市

③大切にされていない権利(平成 30 年度(2018 年度))



④オレンジリボン地域協力員登録人数

<資料>札幌市



<資料>札幌市

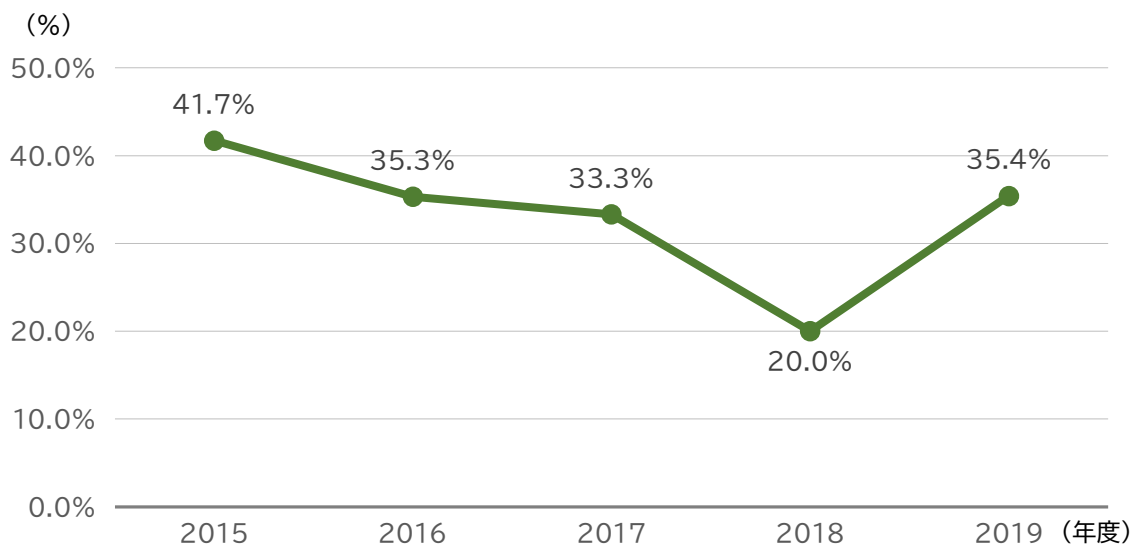
将来のまちの姿-4

配慮や支援を要する子どもは、充実した相談・支援体制などの下、個別の状況に応じて適切な支援を受けることができます。

データからわかる現在のすがた

①障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすいまちであると思う保護者の割合は低下しています。

①障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすいまちであると思う保護者の割合



<資料> 札幌市

基本目標 11

若者が社会的に自立し活躍できるまちにします

将来のまちの姿

全ての若者が社会的に自立できるよう、教育機関や企業、地域、行政などの連携・協力の下、充実した相談・支援体制が整っています。

データからわかる現在のすがた

- ①市内5か所の若者支援施設において、若者の社会的自立に向けた様々な支援を実施しています。
- ②ひきこもりの若者(15～39 歳)は、若者 80.2 人に対して1人の割合で存在しています。

①札幌市若者支援総合センター



②ひきこもりの若者(平成 30 年度(2018 年度))

外出状況に関する質問への回答 (ひきこもりに当てはまるもの)	有効回収数に 占める割合	推計数 (人)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用事の時だけ外出する	1.04%	5,503	準ひきこもり
ふだんは家にいるが、近所の コンビニなどには出かける	0.14%	734	
自室からは出るが、家からは出ない 又は、自室からほとんど出ない	0.07%	367	狭義のひきこもり
合計	1.25%	6,604	広義のひきこもり (ひきこもり群) (若者80.2人に1人)

<資料> 札幌市

将来のまちの姿-2

地域や企業等と大学などの教育機関が連携し、学生に実践的な学びの場が提供されています。

データからわかる現在のすがた

①札幌市立大学「まこまないキャンパス」において、教育を通じて地域志向を持つ「持続的なまちづくりの担い手」の育成、地域志向研究の展開、大学の知的資源を活用した社会貢献・地域連携活動を推進しています。

①札幌市立大学「まこまないキャンパス」



まちの教室



まちの健康応援室



まちの講堂



まちの図書室・談話室

<資料> 札幌市立大学 HP

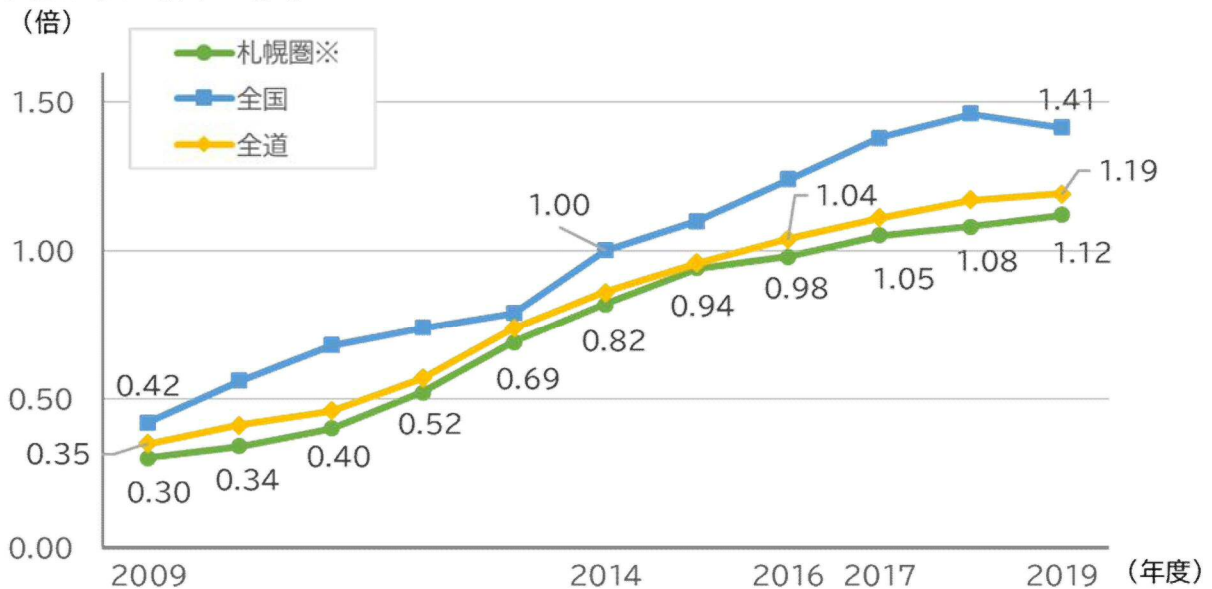
将来のまちの姿-3

若者の安定的な雇用が確保され、起業を支援する制度も充実するなど、働きやすい環境が整っています。

データからわかる現在のすがた

- ① 札幌圏の有効求人倍率は、平成 21 年度(2009 年度)には 0.30 倍でしたが、以後緩やかに上昇を続け、令和元年度(2019 年度)には 1.12 倍となっています。
- ② 回復する雇用情勢の中でも、北海道内において、早期に離職してしまう若者の割合は全国平均よりも高い状況となっています。

①有効求人倍率の推移



<資料> 北海道労働局

※札幌圏とは、札幌市、江別市、北広島市、石狩市(浜益区を除く)、当別町、新篠津村を指す

②新規学校卒業者の3年目までの離職率(平成 28 年(2016 年)3 月卒)

区分	北海道	全国
高校卒業者	45.5	39.2
短大等卒業者	41.7	42.0
大学卒業者	35.9	32.0

<資料> 北海道労働局

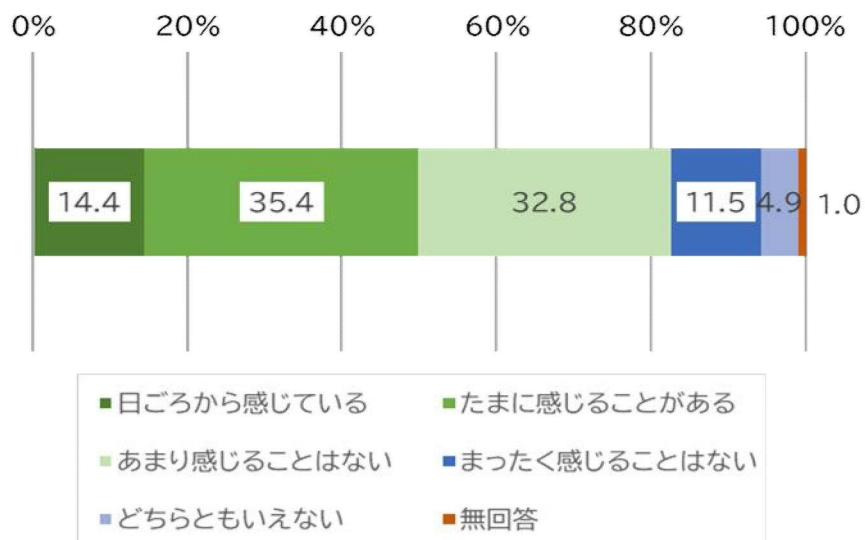
将来のまちの姿-4

多くの若者が、様々なまちづくり活動への主体的な参加や新たな取組への先駆的なチャレンジを通じて、地域課題の解決やまちの活力の向上に向けて力を発揮しています。

データからわかる現在のすがた

① 社会の一員として役割を持っていると感じる若者の割合について、「日ごろから感じている」「たまに感じることもある」と答える若者は約半数である一方で、現状では「あまり感じることはない」と答える若者も3割程度いる状況となっています。

①社会の一員として役割を持っていると感じる若者(20 歳～39 歳)の割合(平成 28 年度)



<資料>札幌市